

## 第23期第11回常任理事会議事録

日時 昭和60年9月14日(土) 10:00~14:00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 松本, 花房, 田宮, 春日, 土屋, 竹内, 浅井,  
吉野, 河村, 松野, 能登

### 議事

#### A. 報告事項およびこれに関連する確認事項

##### [国際学術交流]

- (1) 中国気象学会代表団の訪日に関し、気象庁に協力依頼を行ったところ、実質的な協力は困難であるが、会員としての職員の活動については全面的に支持するとのことであった。
- (2) 東京周辺でのお世話のための実行委員会を設置した。実行委員は原田幹事、木田(企画課)、住(東大)、宍戸(衛星センター)、高橋(気研)、青木(長期予報課)、丸山(気研)の各会員である。

##### [講演企画]

- (1) 秋期大会講演は213となった。
- (2) 予稿集申込要領の変更について(審議事項参照)
- (3) 山本賞受賞記念講演を行うことになった。これに伴い講演の可能性がある旨、講演企画委員会から該当者に連絡することとなった。正式連絡は正式決定後事務局より行う。

##### [教育と普及]

資料にもとづいて第19回夏季大学講座の参加者数(77名)、収支等の報告があった。

#### B. 審議事項

##### 1. 昭和61年度予算について(会計)

- (1) 会員数の動向に基づいて収入予測(約100万円減)および財源の確保、支出増の見込みが示された。
- (2) これに関連し、予算案は事業計画に基づいて作成すべきものである。会費についての認識を明確にし、会員の理解を得る必要がある等の意見が述べられた。

##### 2. 会費を前納しない会員の取扱いに関する内規の会員への周知について(庶務)

天気に掲載するための原案が示され、審議の結果、修正すべき点が指摘された。庶務、天気編集で協議の上天気に掲載することとなった。

##### 3. IAMAP-85 に派遣された会員による記事を天気に掲載することが確認された。(国際学術交流)

##### 4. 中国気象学会代表団の受入れについて(国際学術交

流)

- (1) 受入れに要する総予算は100万円となった。  
このうち、国際学術交流委員会の予算を超える分について学会予備費を使用することが認められた。  
なお、これによっても日本からの代表団の受入れとのバランスは十分とれていないことが確認された。
- (2) 10月21日理事長主催のレセプションを学士会館で開催する。これについて日本人参加者を募るため、理事長名の出席要請を行うこととなった。
- (3) 日程の概略が紹介された。最終案は次回常任理事会で示される。

##### 5. 第24期日本気象学会役員選挙管理委員会の設置について慣例に従い気象庁観測部に依頼することが了承された。

##### 6. 名誉会員について

小委員会での検討の経過が報告された。

次回理事長より改めて説明、提案を受けることになった。

##### 7. 気象庁職員の各委員の変更について(庶務)

- (1) 各委員会は委員に変更のあった場合、速かに文書をもって事務局あて提出することが確認された。
- (2) 講演企画委員の交替が次のとおり承認された。  
新 中川慎治(企画課, 気候変動対策室)  
旧 中井公太(企画課)

##### 8. 事務機械化について(中間報告)(庶務)

資料にもとづき事務処理内容および検討の対象とした機種の説明があり、適合する機種を選定した場合の予想経費について報告された。導入により節減される経費を考慮し、買取りの方針で具体案を作成することとなった。

##### 9. IAMAP-85 に関する報告(浅井理事)

- (1) 全体について概略の報告がなされた。
- (2) 次回開催国の決定経過について若干詳細な報告がなされた。次回は英国開催となったが、次々回の日本開催は有望であろう。
- (3) IAMAP-85 に関する報告は天気に掲載する。

##### 10. 予稿集申込み要領について(講演企画)

中項目1件以内の制限を廃止する旨講演企画委員会からの報告に対し、要領等を短期間に変更することは好ましくない旨指摘があった。

これについて、予稿集募集案内等の書き方で対応で

きることであるとの判断で同委員会に一任することが承認された。

#### 11. 大会期間中の研究会について（講演企画）

次回の予稿集募集に際し、大会期間中の研究会の募集の告示を出して、会場、時間等の調整を行う（ただし、当面は東京における大会を対象とする。）という同委員会の方針が承認された。

#### 12. 会員の新規加入の承認について

個人会員西 龍治ほか30名の新規加入が承認された。

#### 13. 技報堂「気象の話」について

教育と普及委員会から同委員会は対応できない旨報告された。したがって学会としてこの出版計画には関与しないこととなった。

#### 14. 会員の増加をはかることについて（総合計画）

浅井総合計画担当理事より問題提起がなされ、約1時間にわたって意見の交換がおこなわれた。

## 会員へのお知らせ

日本学術会議会長より文部省科学研究費補助金について、理事長あて下記のとおり日本学術会議各部長各研究

連絡委員会委員長あて通知した旨連絡がありました（昭和60年9月）のでお知らせします。

### 記

#### 文部省科学研究費補助金の改善に伴う特定研究の廃止及び重点領域研究の設置について

このたび、文部省から本会議あて「科学研究費補助金における重点領域の取扱いの改善について」連絡がありました。

これによると、文部省の学術審議会会長から文部大臣あて建議が出され、この建議に基づき文部省は、昭和62年度から従前の特別研究、特定研究を廃止し、これらに代えて新たな研究種目「重点領域研究」を設置することとなりますので、本会議で行っていた従来の特定研究領域の受付け及び文部省への推薦作業は、行わないことになりました。

については、新たな研究種目「重点領域研究」に関する本会議の対応について、昭和62年度に向けての事務日程等を踏まえて、関係者の御意見を拝聴するとともに、従来の特定研究領域の設定における本会議と文部省との関係等を検討しました結果、当面重点領域研究の領域設定について、本会議としては申請者からの受付け及び文部省への推薦作業は、行わないことといたしました。

このため、重点領域研究の領域設定の申請を希望する研究者グループは、直接申請書類を文部省へ提出してい

ただくことになりましたので、その旨関係研究者グループに御連絡くださいますようお願いいたします。

なお、申請の手続は、文部省「科学研究費補助金「重点領域研究」一昭和62年度発足重点領域公募要領一」に掲載されます。

おって、第13期における常置委員会の活動体制が整った際、研究費に係わる問題を扱う委員会において広い視野と先見的展望の下に、我が国の学術研究の調和ある発展を期するために、科学研究費等における日本学術会議の係わり方について十分御検討願うとともに、各研究連絡委員会においても重点領域研究の申請等に関し、どのように係わって行くべきかについて御検討願いたいと思っています。

（備考）本件に関するお問い合わせは、下記あてお願いします。

〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議事務局学術課：古屋謙事専門職（事務担当）

TEL. 03 (403) 6291 内線 245

編集後記：11月“霜月”めっきり日が短くなりました。新酒が仕込まれて、酒まんじゅうが季節のお菓子です。編集部では新年号から年に1回はカラー頁を入れ、カラーでなければ表現できない気象現象や関連事項をお伝えする予定です。また12月で「宇宙から見た気象」は一応終了し、4月からは毎月ひまわりによる毎日の全球写真をお届けする予定で準備を進めています。御期待下さい。中国訪日団一行は、日本各地を巡り、研究機関訪問と講演のいそがしい旅を終え、無事帰国されました。その状況は写真、講演要旨などをそえて、できるだけ早くお知らせします。ソ連の衛星ロケットの大気圏突入で夜空

の人工流星を観察された会員も多い事でしょう。米ソの衛星競争で現在2,000個以上の物体が地球のまわりをまわっており、1日1個平均で大気圏に突入しているのだそうです。身近の珍しい気象現象などをお知らせ下さい。

国際学術連合は核戦争の気候影響に関する報告をまとめ発表しました。いわゆる核の冬の到来と、できるだけ少ない被害で核戦争をやろうという核の窓とが同床異夢で共存している世の中で、気象学者の責任は重大です。

さて、毎月最後の週の月曜が編集委員会定例日となっています。投稿論文がそれまでに届くと、1カ月は早く処理されることとなります。（長）